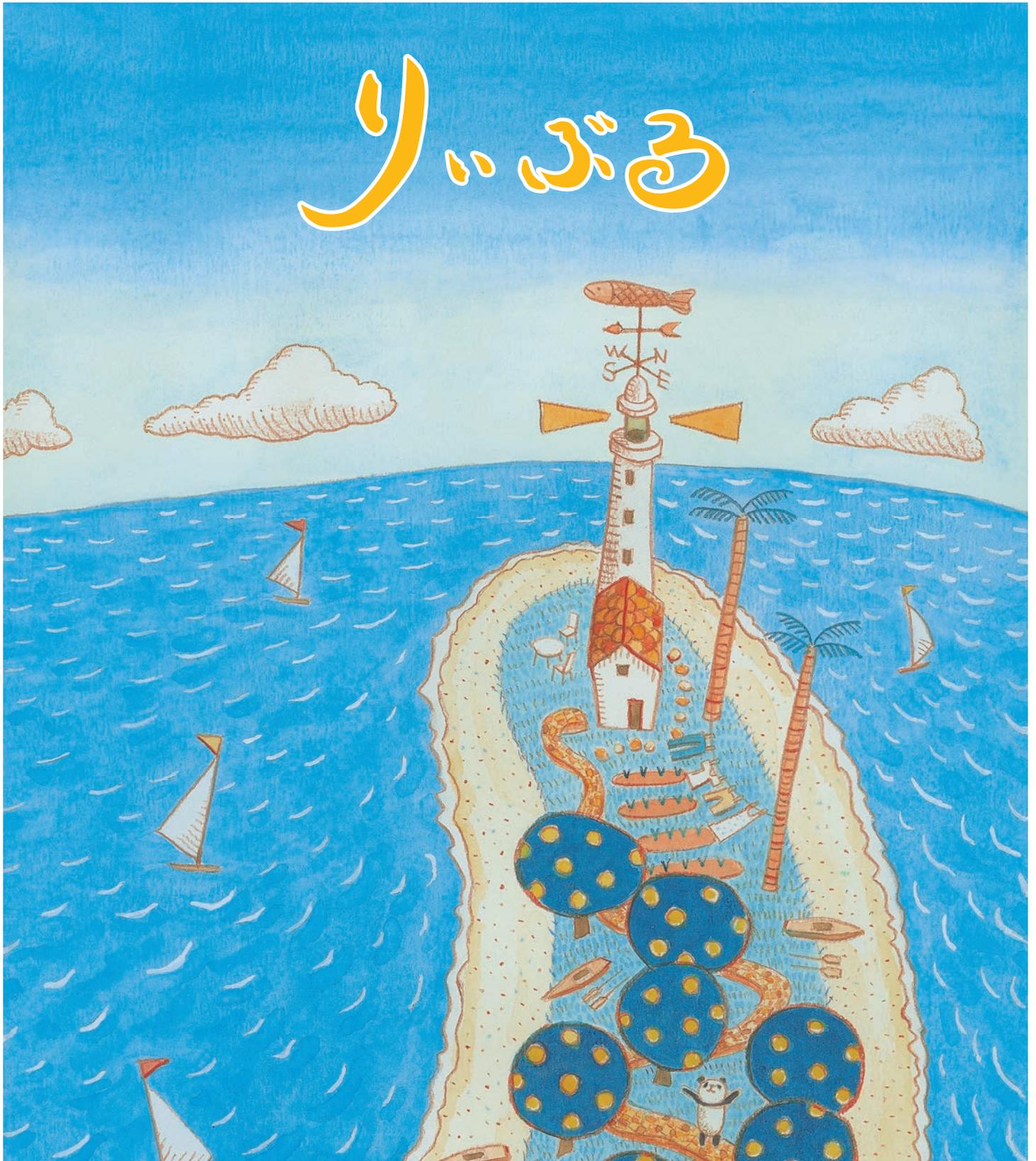


りいぶる

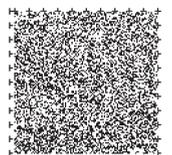


表紙デザイン作者：みやもと かずあき さん（絵本作家、和歌山県有田市在住）

今号の 注目記事

- ◇りいぶるフェスタ 2025 西 靖さん
- ◇講座レポート
- ◇パープルリボンキャンペーン
- ◇和歌山のチカラ

センターニュースりいぶるはスマートフォンアプリ、Uni-Voice（ユニボイス）により文字情報を提供しています。
アプリをダウンロードのうえ、ご利用ください。



講演会

りいぶるフェスタ 2025

日程：11月22日（土）
会場：北コミュニティセンター
多目的ホール

「休んで、育つ」

～子どもも大人も育つ育児休業って？～

講師：西靖さん にし やすし（毎日放送〔MBS〕アナウンサー
相愛大学客員教授 / 神戸女学院大学特別客員教授）

講師の西さんは、4年前に三男が誕生したとき初めて育児休業（以下、育休）を4カ月取得されました。コロナ禍で周囲に頼りづらい状況だったこと、夫婦とも実家が遠方であることに加え、偶然にも長年担当していた番組が終わり、「仕事以外の経験がしたい」という思いもあり取得を決めたそうです。「男と女は生物学的には違うが、社会において平等でありたい。」とする講師が、慣れない家事や育児の失敗、夫婦の関係など、今だから話せる育休体験をもとにジェンダー平等や育休のススメを語られました。

日本の育児休業制度は、夫婦同時に育休がとれ、夫婦どちらも収入が保証されるなど自由度が高いため、最大限活用すれば取得率の高い北欧などと比較しても決して見劣りしない制度だと説明されました。国も男性の育休制度の活用を推し進めており、取得率は2021年には約13%だったが2024年には約40%と高まっているが、取得期間については、最高で1年取得できるものの、実際は1か月以内の人が一番多く短期間だと指摘されました。また、西さん自身社内の男性に時短勤務を勧めており、企業社長である知人が9時から16時までの時短勤務したことで、会社全体の仕事の効率化が図れた事例を紹介されました。

育休で得たものとして、こどもとの時間や料理のスキルだけでなく、金銭や対価とは無関係なご近所さんとのつながりや、ニュース理解の深化、自身の仕事の客観化、仕事仲間の家庭事情への理解などを挙げ、最後に育休取得を検討されている方へのアドバイスにも言及されました。育休は家事育児に専念する期間とはいえ息抜きは重要、とりわけ夫婦それぞれが一人時間を作ることが大切であること。妻の話に解決策を打ち返すのではなく、まずはお茶でも淹れて、落ち着いてしっかり「聴く」ことが大切であること。家事分担については、これは君の仕事、これは僕の仕事と厳密に切り分けると、責任感が生まれる反面、相手ができていないと責める気持ちが出てくることもあるので、妻も夫もいったん「この家のことはすべて私の仕事だ」と心の中で決めると、相手がしてくれたことに自然に「ありがとう」という言葉が出てくる、と話されました。

体験からのお話はどれも共感でき、幅広い年代に役立つ楽しい講演でした。



表彰式

ジェンダー平等推進啓発ポスターコンクール 最優秀賞表彰式

【小学生低学年の部】



しま こうしょう
嶋 康勝さん

和歌山市立名草小学校3年

【小学生高学年の部】



こじま とうご
小島 桐吾さん

和歌山大学教育学部
附属小学校4年

【中学生の部】



まえだ かりん
前田 花凜さん

和歌山市立
西脇中学校1年

【高校生の部】



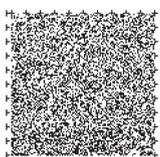
みぞた るか
溝田 流雅さん

和歌山県立和歌山商業
高等学校1年



溝田さん 小島さん 友井副知事 嶋さん

受賞者のみなさま、
おめでとうございます！



魅力ある女性リーダー養成講座

“りいぶる”会議室 A で開催

2025年
8/26(火)

Part 1 リーダーシップ講座&ロールモデルによるパネルディスカッションと交流会



本庄麻美子さん



山下さん



上本さん



松本さん

講師&コーディネーター：本庄 麻美子さん (和歌山大学経済学部准教授/キャリアコンサルタント)

<パネリスト>

山下美沙代さん (株式会社早和果樹園 総務人事部 部長)

上本 賀代さん (株式会社サイバーリンクス 総合管理部 総務部 部長)

松本 千寿さん (社会福祉法人喜成会 特別養護老人ホーム喜成会 看護主任)



最初に、女性リーダーの育成が求められている背景として、急激な少子高齢化を挙げられ、その中で経済を発展させるためには、多様な能力・価値観を持つ人材が求められていると説明されました。これからの時代に必要な「サーバント・リーダー」の4要素として、①情緒的つながり ②奉仕の精神 ③高い倫理観 ④未来への知恵があり、特に重要な①において必要な「傾聴」「共感」「癒し」の資質は、女性の方が持っていることが多いと述べられました。また、リーダーシップのカギとなる言葉は「信頼」であると話されました。

3人のパネリストの方々は、「相手の話は傾聴するようにしている」「相手をよく観察し業務が円滑に進むように工夫している」「目標を決めて細かく進捗状況を確認するようにしている」など、リーダーとしての心がけを話してくださいました。

2025年
9/26(金)

Part 2 スキルアップ講座 「アサーティブコミュニケーションを学ぶ」

講師：谷水 美香さん (ヒューマン・トータルバランスサポートりんと代表
アサーティブコミュニケーショントレーナー/精神保健福祉士)

講師は、『アサーティブ』とは自尊尊重の対話によるコミュニケーションのことで、お互いの自己表現の権利を大切にしながら誠実に率直に伝えて問題解決を図っていくスキルと「自分も相手も大切にする」マインドを軸としたものであると説明されました。更に、人には「攻撃型」「受身型」「操作型」というコミュニケーションの「癖」があり、自分のタイプを知ることが大切であるとともに、「誠実」「対等」「自分側の責任」「率直」という4つのマインド(心構え)がとても重要であると述べられました。

参加者は、グループワークで問題点を明確にし、ロールプレイングを交えて具体的に話し方を練習しました。また、アサーティブ実践の心構えとして1つに的をしぼって内容を整理し、具体的・現実的に伝える必要があると学びました。

最後に、アサーティブ実践において、早めに伝える、課題を明確にしておく、常日頃から繰り返し取り組むことが大切だと述べられました。今日すぐにでも活用できるコミュニケーション術を学ぶことができました。

2025年
11/8(土)

女性のための“理想の未来”を考える

キャリアデザイン講座 ～女子学生と先輩社会人の本音トーク～

講師&コーディネーター：本庄 麻美子さん (和歌山大学経済学部准教授/キャリアコンサルタント)

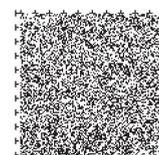
会場：菱岡工業株式会社本社 1階多目的ホール (社員食堂)



本講座は、学生と若手社会人がキャリアプランやワーク・ライフ・バランス等をテーマに意見交換し、将来のキャリア形成を早期に意識することを目的として開催しました。講師の本庄さんからは、「キャリアデザインをする意義」について、キャリアを考える必要性の背景や人生100年時代におけるライフ・シフトの視点が示されました。長寿化の進展により人生のあり方が大きく変化しており、生涯を通じて何度も“変身”し続ける姿勢が求められるとの説明がありました。

その後、「ライフ・キャリア・レインボーシート」に現在、5年後、10年後の自分について記入し、多様な役割と仕事の両立、思い描く未来に向けてできることの二つのテーマをもとに、自由に活発な意見交換が行われました。学生と社会人が互いの立場を尊重しながら意見を交わす姿が見られ、世代を超えた学びの場となりました。

休憩後には、学生が社会人へ率直な疑問を投げかける自由交流の時間を設け、働き方やワーク・ライフ・バランスに関する実践的な質問が多数寄せられました。社会人の経験談を聞くことで、学生にとって働くイメージがより具体的に、有意義な機会となりました。



2025年
10/19(日)

「ジェンダー」で読む、赤ずきんの物語



たかおか なおこ
講師：高岡 尚子 さん（奈良女子大学研究院人文科学系 教授）

会場：“りいぶる” 会議室 A

はじめに講師は、私たちが日々触れている物語や言葉には社会的・文化的・歴史的な性のあり方（＝ジェンダー）が含まれており、その視点で物語を読むことで、社会のなかの「性」にまつわる視点が大きく変わると話されました。

次に参加者たちはグループごとに『赤ずきん』の物語を思い返し、赤ずきんの年齢やおばあさんの家に持参したお土産、また物語の結末など人によって少しずつ違う部分があることに気づきました。『赤ずきん』の物語には、最初に文字として書き留めたペロー版のほか、その後の時代に書かれたグリム版などがあり、書かれた時代によって時代背景や読者の対象が違ふことやグリム童話は教育上好ましいものとして日本で広く普及したため、グリム版を知っている人が多いと説明されました。続いて、『赤ずきん』の物語にジェンダー（社会における男性役割・女性役割）が表現されている部分を考え、「赤ずきんを男の子ではなく、女の子の設定にしたのは時代背景が影響しているのか？」「女の子は自分を守るために賢く生きる必要があり、性暴力の責任は昔も今も常に女性に問われている」などの意見が出ました。

最後に講師は、「グリム版には、小さな子どもに対して『良い子として社会に受け入れてもらえる』こと、また、ペロー版には、15歳前後の結婚適齢期の女性が性的に傷つかないようにするためのメッセージがあり、赤ずきんは『寄り道』をすることによって危険な目に遭うことから、女性が自由に自分の好奇心を満たすことを抑制する目的があると深読みすることもできる。時代により男女の描かれ方の変化はあるが、変化せずに『男の子だから』『女の子だから』こうあるべき、という描かれ方がされ続けている部分もある。」と述べられました。そして「今日学んだ視点を今後も日常のなかで実践的に意識して行ってほしい」と結ばれました。

2025年
11/8(土)

避難生活で命と健康、本当に守れますか？

～被災地の実情から学ぶ！高齢者・障害者・子ども・女性などの視点から～



あさの さちこ
講師：浅野 幸子 さん（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員）

会場：田辺市民総合センター 4階交流ホール

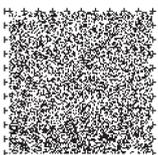
災害発生率が高まるにつれ、避難所運営の重要性にも関心が集まっています。せっかく助かった命を守る工夫や、高齢者、子ども、妊婦、障害者等、支援が必要な人々への対応も考えなければなりません。講座では、講話とグループワークで気づきや知識を得ることができました。

講師は、阪神淡路大震災での被災経験や各地での支援経験から、被災地の被害状況を説明後、特に能登半島地震では地震直後に亡くなった直接死の方の2倍以上の方が関連死されていることや関連死の約8割が80代以上であったことを、データを用いて解説されました。また、東日本大震災による犠牲者の分析から、平日昼間に地域にいる住民の大半は女性や高齢者、乳幼児、障害者等であることがわかり、災害対策の全段階に男女共同参画や多様な視点が不可欠であると語られました。

また、避難所での深刻なトイレ問題について触れ、国際基準であるスフィア基準*では必要なトイレの割合は女性3に対し男性1という目安が示されているとのことでした。さらに、災害時にも女性や子どもに対する暴力が起こりうるので、防犯対策が重要であること、女性と子どもだけに、気をつけてという啓発では被害を防ぎきれないため、男女双方が防犯リーダーとなって、男性も含めて防犯に協力するよう呼び掛け、同時に、女性リーダーが女性や子どもたちの防犯上の懸念や改善点などに関する声を把握し、それを男性リーダーと共有して、犯罪が起こりにくい環境づくりや情報提供（例：トイレを男女別にする、照明を増やす、防犯ブザーを配る、暴力相談のポスターを張り出す、警察にこまめに巡回してもらう）を行うことの重要性について強調されました。

育児・介護用品、女性用品・下着等の不足や管理、配布方法についても生活者の視点が必要だと言及され、担当が男性のみだと必要な人に必要な物が届きにくいこともあると指摘。そのため、ここでも女性が積極的に発言することが必要だと繰り返されました。講師の「避難所で避難している人が要望を出すことは決してわがままではない」との言葉が印象的でした。いざという時、実際に役立つ有益な情報や視点をたくさんいただきました。

*スフィア基準：「人道憲章と人道対応に関する最低基準」の通称で紛争や災害の被害者が尊厳のある生活を送ることを目的に定められた基準。（内閣府 HP より）



2026年
1/24(土)

講座レポート “りいぶる” 語り合い広場

我が家の家計を整える

～マネープラン（教育費・老後資金）を、立ててみる～

講師：^{ふくいち ゆき}福一 由紀 さん（マネーラボ関西 代表） 会場：“りいぶる” 会議室 A



はじめに講師はタイトルにもある“家計を整える”3つの要素を、①収入確保。できれば夫婦とも正規雇用で働き、収入を得るのが望ましい。②支出のコントロール。現在や将来の支出を予想し備える。③自分のお金や生活のデザイン。収入から支出を引いたものを貯蓄する。と説明され共通認識をもちました。

次に教育費について、幼稚園から大学までの公立と私立それぞれに必要な費用を表で解説されました。大学生のほぼ半数は奨学金で進学しており、その返済には平均2万円弱の負担があるという現実を示され、大学卒業後に奨学金を返済しなくてもすむよう、あらかじめ保護者が教育資金を貯蓄することが肝要だと話されました。具体的には、高校までの教育費（学校教育費、習い事、塾代等を含む）は毎月の家計の中で賄い、大学進学にかかる費用は貯蓄を充てるようにするとよいとのことでした。

続いて家計調査報告の平均データを示し、老後の家計収支も自分のやりくり次第なのであまり心配なくていいと言及されました。収入に関して、所得税と社会保険の関係についても詳しく解説され、所得控除について、扶養控除を受けるために家族の扶養に入るより、自分が社会保険に加入した方がその後の自身の年金に反映されるので得策だと説かれました。

また、教育資金貯蓄、老後資金の確保のいずれにも、積立投資を選択肢の一つとして考えることが有効だとアドバイスされました。

最後に、参加者のニーズに合わせて教育資金計画や老後資金計画を立てるワークや、老齢年金額早見表、老齢年金受給額の繰り上げ・繰り下げ受給についてのワークに取り組み、それぞれのマネープランを立ててみました。示唆に富んだ充実の講座となりました。

Human Library “りいぶる” 25

日程：2025年11月30日（日）
会場：“りいぶる” 図書・交流スペース
“りいぶる” 会議室 A

Human Libraryとは、「人を貸し出す図書館」。
語り手を「本」に、参加者を「読者」になぞらえ、図書館で本を読むように、少人数で「本」の語り手に耳を傾け、本への理解を深めるイベントです。

今回は3冊の「本」を貸し出しました。1冊目の「草の根防災士いとはん」さんは、防災に携わる女性が少なかった時代に防災士になり、女性ならではの苦労話や現在までの活動を話され、2冊目の「串本の漫画家」さんは、本業を勤めるかたわら、東日本大震災と同じことが愛する故郷で起きたらという思いから、漫画『ある光』を描いたと語られました。3冊目の「北山川筏師（いかだし）もこ」さんは、北山村で女性初の筏師。今年デビューすることになったきっかけ、筏を作る作業などのお話を交えながら北山村の魅力を伝えてくださいました。

- 1冊目 草の根防災士いとはん さん
タイトル『防災・減災は地域から!』
- 2冊目 串本の漫画家 さん
タイトル『ある光』
- 3冊目 北山川筏師(いかだし)もこ さん
タイトル『女性の筏師で
600年の歴史が変わった!』

本=話し手

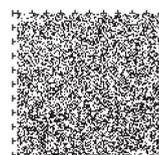


読者=参加者



和歌山県立和歌山工業高等学校「建築技術クラブ」のみなさんが、空き時間を利用して、廃材を使った本棚（6個）を作り寄贈してくださいました！ありがとうございました！！

※写真は完成品のひとつと作業中のみなさんです。





女性に対する暴力をなくす運動期間 (11月12日～25日)

2025年テーマ 「DV や性暴力に気づいたら 相談されたら。
そのとき、私たちにもできることがある。」



今年は、周りの人たちが傍観者にならず個々にできることがあるのではないかと問いかけ、DV や性暴力で悩んでいる方へ「ひとりで悩まないで」という思いを込め、来館者の方や、オンラインでもメッセージを送っていただきました。

*パープルリボンは、女性への暴力根絶のシンボルです。

- 勇気を出して相談を!! 一人じゃないよ!
- 嫌なことは声をあげよう!!
- 恐れずに声をあげよう。あなたの声に耳を傾け、共に歩む仲間がいます。
- 一人で悩まないで。みんなで考えて取り組もう!
- 殴る、蹴るだけが暴力じゃない。誹謗、中傷、無視も暴力!

(メッセージより抜粋)



「みんなにジェンダー平等」提案事業 今年度も5団体が採択されました!!

性教育講座： 性を学ぶ、未来をつくる—高校生 のための性教育講座 第2回

企画・運営：「からだの権利」教育を推進する助産師の会

日程：2025年
11月25日(火)・12月15日(月)
12月17日(水)・12月23日(火)
会場：県内4つの高等学校で開催

性に関する基礎的知識の不足が予期せぬ心身の健康問題に発展することがあります。そのため、高校生を対象に正しい知識を身につけ、自身の意思決定や将来へのライフプランについて考え、責任ある性行動を考える講座を開催しました。

わたしは未来の STEAMガール!

企画・運営：一般社団法人ガールスカウト
和歌山県連盟

講師：^{こうのともき}河野智樹さん(一般社団法人
国際STEAM教育推進機構 代表理事)

日程：2026年12月7日(日)
会場：北コミュニティセンター

こどもたちが理数系分野に自信を持ち、主体的に学ぶ姿勢を育むことを目的とし、年齢に応じた学びと年長者からのロールモデル教育を組み合わせ、認知能力・非認知能力の両面を育てる環境づくりを目指す講座を開催しました。

立ち向かう! ドラマの中の「わたし」たち

企画・運営：cocoro サポート・ネット
「カミーニョ」

講師：^{にしもりみちよ}西森路代さん(フリーライター)

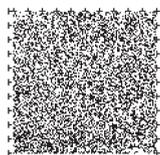
日程：2026年1月17日(土)
会場：“りいぶる”会議室A

ジェンダー視点で社会を打破しようとしているドラマに焦点をあて、思考を柔らかくし、ジェンダー課題を新たな視点で見直すことで、今まで見ていなかった世界を知るきっかけにする講座を開催しました。

* STEAM(スチーム)…STEAM教育のこと。Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)を総じた教育。

[一般社団法人国際STEAM教育推進機構の公式Webサイトより]

来年度も、「提案事業」を募集予定です。みなさまのご応募、お待ちしております。



#その声、聴こえていますか? ～避難所の見えないリアル～

企画・運営：LGBTQ と愉快的仲間たち

日程：2026年1月24日(土)
会場：“りいぶる”会議室B

女性が安心できる避難所は、LGBTQの方や支援が必要な人にも過ごしやすい場所となります。女性が積極的に避難所運営に携わる必要性や意義をグループディスカッションで共有しました。

カラフルU-18 交流会&保護者会 in 和歌山

企画・運営：特定非営利活動法人
チーム紀伊水道

日程：2026年2月21日(土)
会場：“りいぶる”会議室A・B・C
一時保育ルーム

和歌山でのLGBTQに関する若者世代(18歳くらいまでの方を対象)が自分らしく過ごすことができる居場所を開設するとともに、こどもの性のあり方や性別との向き合い方を考える保護者の方々が交流できる機会を設けました。

りいぶる 図書室

スタッフおすすめの本をご紹介します★

お寺に嫁いだ私が
フェミニズムに出会って考えたこと著者：森山りんこ
出版社：地平社

お坊さんと結婚した途端に「お寺の奥さん」と呼ばれ、寺と家庭の区別は曖昧で違和感だらけの毎日。女性の役割が求められるなか、生きづらさと自己喪失を感じモヤモヤばかりが増えていく。フェミニズムに出会ったことで、そのモヤモヤの正体に気づき、「お寺の奥さん」から「私」を取り戻し始める。

仏教界のジェンダーバイアスに切り込み、お寺のこれからを問いかける当事者エッセイ。

地方女子たちの選択

著者：上野千鶴子
山内マリコ
協力：藤井聡子
出版社：桂書房

「若年女性の地方流出」について、本書では地方都市「富山」にとどまった女性・出て行った女性・戻ってきた女性・やってきた女性たちに取材したリアルな声と「富山から出て行った」著者2人の対談を掲載。

その原因は、ジェンダー規範と家父長制に基づく社会の構造が深刻な問題であると指摘している。同時に女性たちにも自分が納得できる生き方を選んでもほしいとエールを送っている。

10歳から知っておきたいお金の心得
大切なのは稼ぎ方・使い方・考え方著者：八木陽子
「キッズ・マネー・ステーション代表」
編者：オフィス・ジータ
発行所：えほんの杜

「こどもはお金のことを知らなくていい」と、日本では「お金」の教育に消極的でした。でも、誰しも「お金」に関係なく生きてはいけません。この本は、こどもの頃からお金の稼ぎ方、増やし方、使い方等を知ってほしいと書かれた一冊。“物の価格”から、“キャッシュレス”、“投資”や“税金”、“社会保障制度”まで、イラストや図を使って分かりやすく解説する。大人が読んでもためになる！

和歌山の千カラ ~今、この人に会いたい~



非営利活動法人エルシティオのなかの事業の一つに、「えびとおはぎ」という学校に行きにくい子どもたちが集う居場所があります。そこで代表を務める具路康平さんに、立ち上げのきっかけや子どもたちへの思い、今後の展望などを伺いました。



具路康平さん

1. 「えびとおはぎ」はどのような場所ですか？

一言でいうと、“学校に行けない子どもたちの居場所”です。また家族や学校の先生、ソーシャルワーカーさんからの相談も受けています。平日のみ、午前10時～午後3時まで開放していて、小学生、中学生、高校生の子どもたちが来ています。過ごし方は自由です。何かしなければいけない、という決まりは全くありません。ゲームをする子、絵を描く子、工作をする子、勉強をする子など、みんな自分のやりたいことを自分で決めて過ごしています。ちなみに、「えびとおはぎ」は立ち上げ当初のスタッフと私の好きな食べ物です。食べ物の組み合わせが様々であるように、色々な人が集まって一緒に過ごせる居場所になれば、という思いを込めました。

2. 具路さんがこの仕事に携わるようになったきっかけは？

私自身が小学3年から中学3年まで不登校を経験しました。当時、学校に行けない子どもが過ごせる所があり、また和歌山大学の学生たちが運営する「プラットホーム」という居場所もありました。その後和歌山大学へ進学し、今度は私が子どもたちと関わる立場になりました。卒業後、他の職種を経てこの法人で相談員として働き始め、2021年11月に「えびとおはぎ」を開設しました。自身、学校に行けなかった時期がしんどかったので、子どもたちが安心して過ごせる場所を作りたいと思ったのが始まりです。

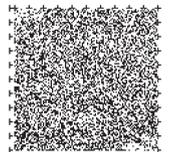
3. ここでの具路さんの役割はなんですか？

子どもたちが来ている時間は、とにかく子どもたちと同じ空間で過ごしています。こちらから学校の話はしません。しんどくなる子もいるかもしれないからです。子どもたちから話してくれたら聞きます。子どもたちには、色々な人と関わってほしい、色々な人がいるってことを分かってほしいです。他には、ここの運営や取材を受けることもありますし、講演会や広報活動。また大人や学校の先生に不登校のことを知ってほしいと思い、お話することもあります。社会では「不登校はよくない」というイメージがあって、子どもたち自身もそれを感じていて、自分を責めてしまうこともあります。それを少しでも変えていけたら、子どもたちだけでなく、親御さんの気持ちも少しは楽になると思っています。

4. 今後どのような社会になってほしいですか？

社会の不登校に対する理解がもっともっと広がっていく必要があると考えています。家で過ごした方がいい場合もある。でも子どもたちが「家から出たい」と思った時に行ける居場所の選択肢が増えて、一人一人の子どもたちが安心して過ごせる居場所が増えたらいいと思います。できれば、各小学校区に1つそういう場所があれば、子どもたちが自分で通うことができる。または各学校に教室とは違う部屋で過ごせる体制が整えば、外へ足を踏み出せることも多いと思います。人との関わり方を経験することは、生きていく力になっていくはずですよ。

子どもたちが過ごす明るい部屋には、クッションやぬいぐるみ、本や色々なゲームなどもそろっていて、何よりスタッフの皆さんのやさしい笑顔から居心地の良さが生まれているように感じました。



“りいぶる” 相談室 相談受付専用ダイヤル



073(435)5246

相談は無料。専門の相談員がお話を伺います。
 予約は、希望者本人に限ります。秘密は厳守します。ナンバー
 ディスプレイは使用していません。

総合相談 家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

電話相談

☎☎☎☎☎☎ 9:00～20:30 (受付は20:00まで)

☎☎☎☎☎☎ 9:00～17:00 (受付は16:30まで)

面接相談【要予約・女性のみ】

☎☎☎☎☎☎ 9:00～17:30 (受付は16:30まで)

☎☎☎☎☎☎ 9:00～16:00 (受付は15:00まで)

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に女性カウンセラーが応じます。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

男性のための電話相談

職場のストレス、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

面接相談または電話相談

☎☎☎☎☎☎ 13:00～15:40

※原則毎月第1・第4金曜日

要予約 (匿名可)、1日3人まで。
 相談時間は1人40分。

面接相談

毎月2回 (不定期) 13:00～14:50

※日程は“りいぶる”までご確認ください。

要予約・女性のみ、1日3人まで。
 相談時間は1人30分。

☎☎☎☎☎☎ 16:00～20:00

(受付は19:30まで)

※毎月第2水曜日

予約優先 (匿名可) 1日5人
 相談時間は1人40分。

LGBTQ 相談

レズビアン(L)・ゲイ(G)・バイセクシャル(B)・トランスジェンダー(T)など、様々な性的指向や性自認の方のための専門相談窓口を開設しています。本人からの相談だけでなく、ご家族や友人、職場の関係者など周りの方からの相談もお受けします。秘密厳守、匿名での相談も可能ですので、安心してご相談ください。

面接相談または電話相談 ☎☎☎☎☎☎ 14:00～18:00

※原則毎月第1土曜日 (2027年1月は第4土曜日) / 1日4人、相談時間は1人40分。要予約 (匿名可)
 予約は前日の16:00まで。メール予約可。E-mail: e1105011@pref.wakayama.lg.jp
 日程については、お電話 [073-435-5246] でご確認ください。



性暴力について相談したい…

性暴力救援センター和歌山 わかやま mine

(和歌山県立医科大学附属病院内)

◆相談受付専用ダイヤル

オーエンキューキュー
073-444-0099

- 電話相談 24時間365日 (但し、22時～翌朝9時と年末年始はコールセンターでの対応となります)
- 面接相談 9時～17時45分 ※要予約、土日・休日・年末年始を除く
- 緊急医療 24時間365日

こころとからだの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。
 ひとりで悩まずに相談してください。



◆発行◆ 和歌山県ジェンダー平等推進センター “りいぶる”



和歌山ビッグ愛の9階にあります!

りいぶる

★LINE アカウント★

「りいぶる」で検索してね!

LINE“りいぶる”公式アカウントはこちら

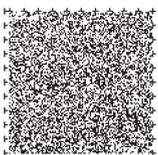


フェイスブックも更新中

☆表紙デザインについて☆

作者みやもとかずあきさんは、ベビーこども服店を営みながら創作活動を続け、2019年有田川町絵本コンクール優秀賞、2021年日産童話と絵本のグランプリ絵本の部優秀賞、2023年新美南吉絵本大賞入賞、講談社絵本新人賞を受賞。「あおくんふくちゃん」(講談社)で還暦にして絵本作家デビューを果たされました。今春、2作目の絵本「ふわふわパンダ」(講談社)も出版。

表紙は、凪いだ海と灯台とみかんが実るのどかな風景。灯台は進む先を照らしてくれます。あわてず、力まず、先に進めばきっと行きたいところへうまくいけるような気がしてきます。



〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL 073-435-5245 FAX 073-435-5247

E-mail: libre@sirius.ocn.ne.jp

【開館時間】 火曜～土曜：午前9時～午後9時
 日曜：午前9時～午後5時30分

【休館日】 月曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)